

浄土

五月号

昭和十一年五月廿日 第三種郵便物認可 (毎月一回一日発行)
昭和二十四年四月二十八日 運輸省 (特別授受記録誌第三五二号)
昭和四十一年四月二十五日 印刷 昭和四十一年五月一日発行



第三十二卷

第五号

法然上人鑽仰会

ユーモラスな竜燈鬼

奈良 興福寺 蔵



とらわれのない境地、これこそ誰しもが身につけたいものである。そう感じつつ、すでにその境地をえたいととらわれるのも愚かな人間の考えでもあるけれども、意を決して緊張した仕事に従事する。修行に、生活に緊張感が強いほど、肩をいからして疲労も多くなる。肩をいからしている凡夫の肩をポンとたたいて、あんまり緊張するなよと言わんばかりに緊張することの無意味さをこの像は教えてくれているかのである。人間にはどんな多忙な生活のなかにあっても、ゆとりが、閑がどれほど大切なものであるか。経験者はどんな時にもあわてず、一定のゆとりを、あるいは間（ま）を大切にしている。

龍燈鬼をじっとみつめていると、そこはかたなく、鎌倉時代の優雅な一面を思い知らされる。なかば首をすくめ、なにか悪いいたずらを見つけられた子供のような無邪鬼さが、この像にはある。肩のこるほどりきんでいる人は、この像の前にたたずんてみればよい。若い修行僧も龍燈鬼を見ながら、心の落着きを与えることができたのではあるまいか。人間にユーモアの精神が欠けているときこそ、緊張しすぎて失敗をしやすいものでもある。一服の清涼剤、それはユーモラスな龍燈鬼の彫像であらう。



法然上人御法語

魚くふもの往生をせんには、鶺鴒ぞせんずる。
魚くはぬものせんには、猿ぞせんずる。
くふにもよらず、くはぬにもよらず。

— 目 次 —

表紙「たんぽぽ」松濤達文画

随想	岡村昭邦・丸山洋伍・中村佐寿郎	(2)
法然上人八百年をめざして	佐藤 良智	(8)
恩を知る	壬生 台舜	(4)
— . — . — . — . — . —		
心の触れ合い—欧州仏教事情—	土佐 舜成	(10)
浄土土 夫にも念仏をすすめたい	藤井 実応	(12)
無媒随録	須藤 隆仙	(15)
よんでみたい本	芹川 博道	(16)
— . — . — . — . — . —		
お経の話 懈怠を恥じる	村瀬 秀雄	(18)
奉仕の心	当間 寿海	(31)
読者の声 愚者のたわごと		(9)
読者訪問		(24)
仏像解説		(21)
ご法語をいただく		(31)
人生相談 心のもち方		(26)
読者の声 私の願い		(28)
信仰の手引 燈明		(32)
連絡 読者 みんなの法		

ある死刑囚の手紙

岡 林 昭 邦

いく年か前のある日、私は一通の手紙を受取った。差出人は「仙台市行人塚・佐々木久雄」封を切ってビックリした。行人塚とは、仙台拘置所のある場所なのだ。

ある誌の散文を見て、死刑囚のおぼれる者はワラをつかみたい気持から、文通を求めてきたのだ。私は快く受取って返事を数回書いた。

彼は昭和五年、東北の松島に近い農村で七人弟妹の長男として生れた。祖父母両親の元で恵まれた平和な家庭に育った。しかし、祖父の大酒飲みで次第に田畑を手放し、一家をあけて満州の奉天に移住。昭和十九年の中学二年で海軍航空兵へ志願、きびしい訓練もあげくの果ては終戦、そしてソ連軍のホリヨとなり、極寒の地シベリヤに送られる。つらい重労働にたえかねて脱走を計り、シベリヤの

▽いまだ見ぬ絞首の仕かけ思いつつ夜半のふしどにマナコさえおり

▽畑打って細々くらす老母に会わむすべなく
処刑待つわれ

▽処刑なき今日のひと日を満ちたり夕べの部屋にラジオ聞きおり

誰もが簡単に味わう事の出来ない死刑囚という環境の中で、法の敷きによって死に向かつてゆく自分の姿を訴えついているようだった。彼からの手紙がとだえ、処刑されたことを知ったのは、梅だよりを聞く頃だった。

ある犬の死

国境を越えて満州の奉天へたどり着き、親弟妹と再会。まもなく引揚船で日本の土をふむ。

郷土の仙台に身を寄せた彼は、仙台市役所に就職、平凡なサラリーマンとなったが、昭和二十七年に母が急病で入院、一家はたちまちドン底生活。母の医療費を助けるため、当時義務教育もおえない弟に知人宅の農業を手伝わせ、二年分の給料を前借したが、弟の働く所は仕事がつらく、数ヶ月で家に逃げて帰ってくる。その知人は「二年分の給料は払っているのだから」と、連れもどしにやってくる。話しがこじれて、カッとなって彼は刃物でひと突き殺してしまう。そして逃げる間もなく逮捕。昭和三十一年八月、殺人罪で死刑の判決。仙台拘置所につながれて明日の身知らず……との、身の上ばなしだった。

彼は、いつも手紙と一緒に短歌を同封してくれた。

▽目覚むれ処刑の刻を過ぎるまで心乱れてなすすべもなし

▽朝々に処刑気使う日々にして四年を過ぎぬ死刑囚舎に

犬に似合わない顔付で何か人をくったようなところが見られた。しかし何か救いを求めるかのような目付で小さな尾をプリプリ

恩を知る

壬生台舜



「恩を知らない人間は犬畜生に劣る」という言葉がある。

この言葉の意味は、人間には犬や猫たちの持っていない倫理がある、ということであろう。だからこそ、「ばか野郎」と人をののしったり、「へちま野郎」と軽べつする。「ばか」とは愚かものという意味であるが、「へちま野郎」とはどういう意味であろうか。私はこの言葉の由来を詳しく調べたことはないけれども、

恩のある垣根を倒す へちまかな

という句がある。これは、へちまが垣根をはい上って成長し、つるがのび、花が咲いて、大きなへちまがぶらぶらになると、その重みが、自分の成長に力を借りた垣根をも倒

すほどになる情況を表現したものである。つまり「恩を忘れたへちま野郎」ということになるわけである。私共は「へちま野郎」になりたくはない。

法然上人御開宗

八百年をめざして

佐藤良智



カ

わたくしたちの命の親さまであるあみださまにめぐり会せて下さった法然上人さまが、そのみ教えをおひらきになった時からやがて八百年になろうとしています。もう十年足らずの時がその時です。老少不定、わたくしがそのよき日にめぐり会えるかどうかはわかりません。私がこのよき日にめぐり会えれば感激して祖山の山門をくぐることでありましょう。しかし、そのようなことはわたくしごとです。今はただ、少しく時代がきびしすぎます。私ごとにかかわっていられない時のように思われます。時代の進み方があまりにも早く、その変化があまりにもはげしすぎます。ヨーロッパが五十年かか

つて今日の近代社会を構成したのに日本は十五年乃至十年でその変遷を経たと識者は言っています。

二十一世紀の社会がしきりに考えられつつあります。もう一つの近代社会の黎明期であります

心の触れ合い

—欧州仏教事情—



土佐舜成



J・オースチン師と（ロンドン）

昨年十二月
待にて渡欧、一月末日無事に帰国いたしました。

(一) 往訪せし仏教団体

(イ) 西ベルリン真宗協会（会長 ハーリ・

ビーバー師）

(ロ) プリュッセル仏教会（会長 モウリス

・キール師）

(ハ) ロンドン仏教協会（会長 C・ハンフ

レーズ氏）

(ニ) ロンドン・サンガ協会（会長 S・サ

ンガラクンタ師）

(ホ) ロンドン・セイロン仏教会（会長 M

・スマンガラ師）

徒の招

(ヘ) パリー仏教友の会（代表 S・カルベ
レ女史）

さて、時間の都合上、以上の諸団体しか往訪出来ませんでした。その殆んどが上座仏教で、僅かに西ベルリン真宗協会と「西欧仏教」編集長J・オースチン師が大乗仏教を宣布しているのみです。

この他、ロンドンにはビルマ、タイの仏教サンガ協会

るに、大英博物館、パリーのギュメ東洋美術館を訪ねし折、安置されています仏陀の柔和なお顔を見て、之が東洋のシンボルかと……：それに比べて十字架上のイエス・キリスト様のお姿は、そこに深い信仰上の意義があるにせよ、余りにも残酷であり西洋のシンボルとして受取るには、いささか考えざるを得ないということです。

又神学にはドグマ的要素が多く、この点仏陀の態度は、見るべきもの、避けられないものを見ないのでなく、見るべきものはどこまでも徹底して見極めて行く、之はむしろ合理的態度であり、仏陀の内観せる内容は我々



J・ケヤツツ教授と（ブリュッセル）

西欧人にアッピールし易いということです。次に仏教は仏陀の名において国際的大戦争を惹起して居らず、即ち仏教の歴史は流血の歴史でないということ、その点第一次、第二次両世界大戦の主たる原因は共にキリスト教国から

浄土信仰問答(五)

夫にも念仏をすすめたい

藤井実応

A 私はおかげでみ教を聞き、念仏申す身とならせて頂き、よろこんでいるのですが、主人と共に念仏ができたらどんなにうれしいことかと思ってすすめるのですが、なかなか私などのいうこと聞いてくれません。一緒にお参りしましょうというのと、忙しいとか、話を聞かなくても分っているとか申し参りませんし、お念仏しましょうというのと、口では称えなくても心で拝んでいるから称えんでもよいとか理屈をいうて申してくれません。どうしたら夫を信仰に入れることができませんしょうか。

B 念仏をすすめたからとて申せるものでもありませんね、機縁が熟する時というか、因縁(種々の条件)の、ととのう

あり方がその機縁をととのえる大きな力となるでしょうからね。

先ほどのお話に御主人がなかなかいうことを聞いてくれぬといわれましたが、あなたがこうして自由にお参りができ、御念仏申すことをよく理解下さっていることを第一感謝せねばならぬと思いますね。

A 感謝いたしております。

B 御主人がそれだけ理解をもっておられるということが、そのまま大きな仏縁があるということ、その上御先祖からの御縁もあることですから、もう一步で因縁がととのうのではないでしょうか、それにつけても、あなた御自身一心に念仏

のを待つよりほかはないものと思われまます。

A どうしたら早くその縁が熟するででしょうか。

〈お経の話〉その五

——無量寿経(中)——

懈怠を恥じる

村 瀬 秀 雄

五逆と往生

法蔵菩薩は自分が果すべき使命を熟慮した結果、四十八の誓願をたててその目標を確立しました。そこで次には使命を完遂するため大変な努力をされました。長い間にわたる修行が続けられました。修行といっても、特に珍しい修行とか難しい訓練とかを積まれたわけではありません。誰にでもできる修行、誰でもが行わねばならぬ修行であって、少なくとも菩薩さまなら常に行っているものに外ありません。經典はその内容について次のように記しています。

第一には財物を自分独りでむさぼることをしないで、常にわけ合いました。そして人々に対して真の利益と恵みを与えるように努めました。第二には腹をたてたり他人を憎むことをしませんでした。特に悪口雑言をばくことは自分を傷け他人に害を与えるものです。常におだやかな言葉を用いて、自分も他人も共に利益を得るようにしました。第三には何事をなすにも倦み疲れないように努め、困難に遭遇しても耐え忍んでゆきました。苦痛にあっても心を動揺させませんでした。第四には善行とわかれれば自ら進んで行い、努力

を少しもおしみませんでした。第五には物質的な感覚的な肉体的な欲望に執着しませんでした。無欲で常に足ることを知り、そのためにむさぼりと愚かさの煩惱から離れることができました。第六には精神を統一して三宝をうやまい、自由で正しい智慧を得るようになりました。

以上のことは期間の長短や程度の差こそあるわけですが、誰でも行えばできる筈のものです。こうしたところに法蔵菩薩の修行の有難さがあります。ただ他

絵	連
話	続

みんなの法然さま

——山をくだる——

高橋良和

さしえ 小林健造

法然上人は四十三才で念仏のおしえを開くと、その後はひたすら南無阿弥陀仏の念仏をとなえることを毎日の生活としたのである。

ひと口に、念仏を申すことだけというが、これがなかなか大変な行なのである。いろいろなこともした上で念仏をとなえるというのなら割合に気分の転換も出来るが、念仏だけを申すとなるとこれは決して楽な行ではないのである。

それも数にして五万回、六万回というのであるからよほどの決心がない限り、なかなかのことではないのである。

結果からいうと少しとびすぎるが、法然上人はそれを一生つづけたのである。世のなかで一ばん多く念仏を申した人



はっきりにいきたのである。

これというのも、「仏のちかい」にあるこの念仏は、古今東西を通じて一ぱんすくわれるための近道であるということ、法然上人自らが学問し、それを体系づけたのである。

こうして、人間救済の根本理念をうちたてると、法然上人は大衆を救済するために比叡山を下るのであるが、大衆救済というような大それた考えがなくても、真理を体得したこの学徳兼備の人を比叡山だけにとどめておかなかったのである。

山を下りた法然上人はまず、自らが念仏を申しやすい環境をさがすのであるが、その最初に目をつけたところが洛西広谷の地である。

広谷の地は京都の地図をさがしたって、見つかるものではないのであるが、京都から西、今は郊外であるが、大阪に行く阪急電車で約三十分のところに長



編集後記

○京都でも東京でも、御忌会が盛大に行われ、善男善女の参拜者でにぎわっていた。春は御忌で最高潮というところ。

大正大や仏大の伝道隊も若々しい声で念仏信仰を説いていた。

○京都の浄土三十周年記念会は、四月二十二日、家政

学園での寺内大吉氏の記念講演、ステーションホテルでの記念パーティーと、賑やかに行われた。浄土雑誌有縁の人々が、これで一段と増したことは、この上なく喜ばしい。

○佐藤賢順先生を偲ぶ賢順忌が、三月二十七日、願行寺で行われた。浄土同人をはじめ、大正大学の哲学科関係の先生方が、夜遅くま

求 職

ご理解ある方を求む

身体障害者四十七才、旧中卒

</

